

# 島根県立大学 教育実習前指導



指導案・指導略案の書き方と授業づくり

大阪府立西浦支援学校

樋井 一宏



# 今日の予定



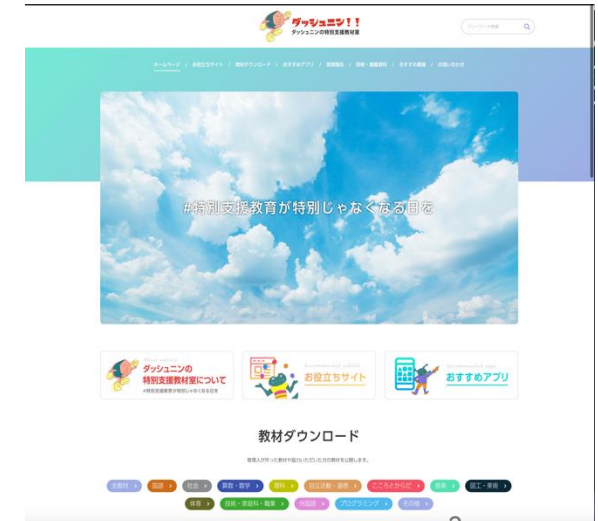
- 1、自己紹介
- 2、特別支援学校における授業について
- 3、授業づくり～各様式の関連性～
- 4、指導案の書き方
- 5、授業の基本的な構成と考え方
- 6、指導略案の書き方
- 7、授業観察の観点
- 8、まとめ 質疑、応答

# Ⅰ、自己紹介

- 大阪府立西浦支援学校 中学部
  - 樋井一宏 (ひのい かずひろ)
  - 教員歴：15年目 知的障害特別支援学校
- 知的、発達障害の生徒を中心に肢体不自由生徒も担当



- 免許：特別支援学校2種（知・肢・病）
- 中学校・高等学校 専修 国語
- 本校開校時、開校準備室メンバー
- H.P.「ダッシュニンの特別支援教材室」管理人



- 校内の支援コーディネーター

毎年、教育実習の指導教員や実習生の指導案指導  
初任者、10年目研修の指導案指導

→教育実習生が指導案を書く時に  
知っておいて欲しいポイントや書き方  
授業づくりのポイント  
具体例を基に説明

今日のねらい：指導案、指導略案の書き方  
授業作りの考え方について知る

# 今日の予定

- 1、自己紹介
- 2、特別支援学校における授業について
- 3、授業づくり～各様式の関連性～
- 4、指導案の書き方
- 5、授業の基本的な構成と考え方
- 6、指導略案の書き方
- 7、授業観察の観点
- 8、まとめ 質疑、応答

## 2、特別支援学校における授業について

- 小学部、中学部、高等部が併設  
児童生徒の学齢や実態に応じて  
幼少期の発達段階を重視した学びから  
卒後の社会生活を見据えた指導まで
- 課題別学習グループ、縦割りの授業

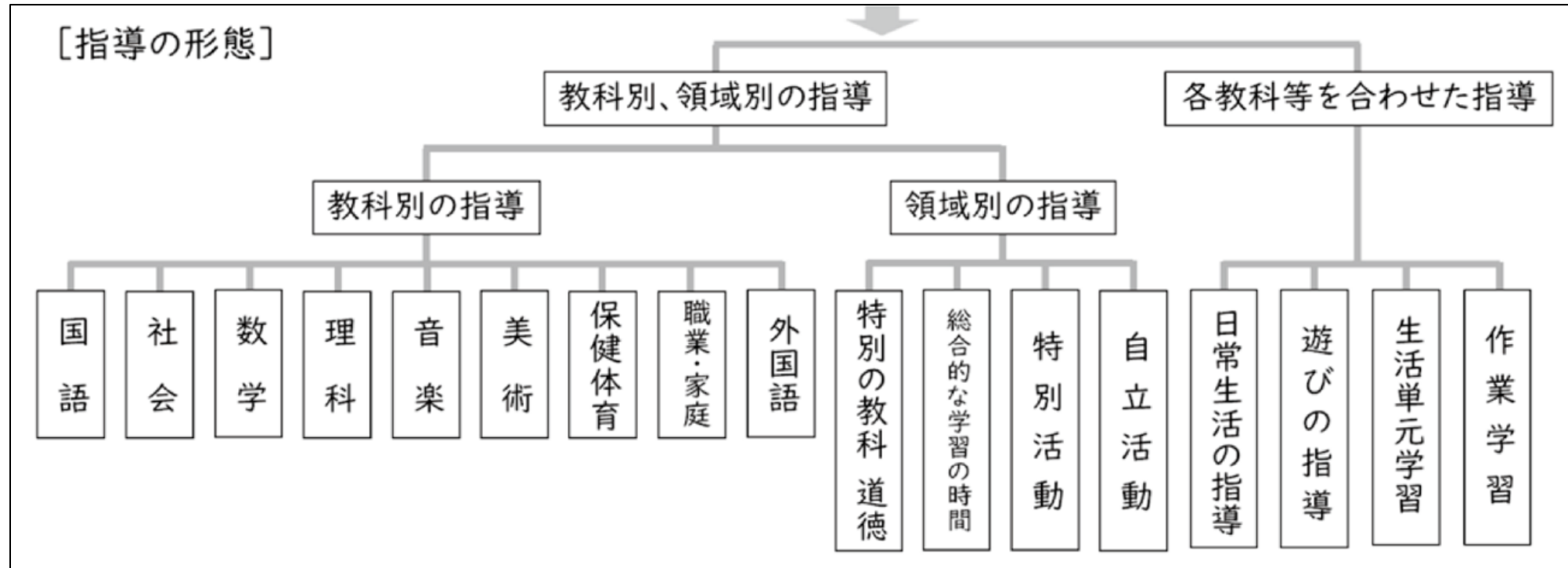
	1	2	3	給食	4
月	更衣・ランニング・朝の会	特別活動	道徳	○	美術
火	更衣・ランニング・朝の会	保健体育	国社外	○	家庭
水	更衣・ランニング・朝の会	自立活動	数理	○	作業
木	更衣・ランニング・朝の会	特別活動	保健体育	○	音楽
金	更衣・ランニング・朝の会	数理	国社外	○	作業

大阪府立西浦支援学校の過去の時間割

- 「国社外」や「ことばかず」「作業」 学校独自の授業名  
その授業に、どのような教科の内容が含まれているか 要確認
- 「自立活動」や「道徳」が時間割上にない学校も  
→学校生活全般において指導されている



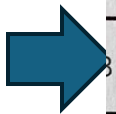
## 図にすると



引用元：大阪府 令和3年度「ともに学び・育つ」学校づくり支援事業 自立活動ハンドブック（中学校版）～「ともに学び、ともに育つ」教育の継承とさらなる発展のために～. p. 15

令和7年度 中学部 時間割(通常下校)

			月			火			水			木			金		
			中学部			中学部			中学部			中学部			中学部		
中			1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3
8:55	10	登校															
9:05	10	1限	自立活動[更衣・準備]			自立活動[更衣・準備]			自立活動[更衣・準備]			自立活動[更衣・準備]			自立活動[更衣・準備]		
9:15			自立活動[アクティヴ・イティ]			自立活動[アクティヴ・イティ]			自立活動[アクティヴ・イティ]			自立活動[アクティヴ・イティ]			自立活動[アクティヴ・イティ]		
9:30	15		自立活動[朝の会]			自立活動[朝の会]			自立活動[朝の会]			自立活動[朝の会]			自立活動[朝の会]		
9:40	10	休憩															
9:50	45		国語	自立活動	数学	保健体育			数学	道徳	自立活動	保健体育			自立活動	国語	特別活動
10:35	10																
10:45	45	3限	総合	総合	総合	道徳	数学	数学	特別活動	国語	国語	国語	数学	道徳	数学	特別活動	国語
11:30	5	休憩															
11:35	25	4限	外国語	外国語	外国語	社会	理科	理科	理科	社会	社会	社会	理科	理科	理科	社会	社会
12:00	20	給食	自立活動[給食前指導]			自立活動[給食前指導]			自立活動[給食前指導]			自立活動[給食前指導]			自立活動[給食前指導]		
12:20	20		給食			給食			給食			給食			給食		
12:40	25		自立活動[給食後指導]			自立活動[給食後指導]			自立活動[給食後指導]			自立活動[給食後指導]			自立活動[給食後指導]		
13:05	10	休憩	昼休み			昼休み			昼休み			昼休み			昼休み		
13:15	45	5限	音楽	美術	家庭	家庭	音楽	美術	作業			美術	家庭	音楽	作業		
14:00	5	休憩															
14:05	25	5限	音楽	美術	家庭	家庭	音楽	美術	作業			美術	家庭	音楽	作業		
14:30	15	6限	自立活動[掃除・更衣・準備]			自立活動[掃除・更衣・準備]			自立活動[掃除・更衣・準備]			自立活動[掃除・更衣・準備]			自立活動[掃除・更衣・準備]		
14:45	20		自立活動[エンジョタイム]			自立活動[エンジョタイム]			自立活動[エンジョタイム]			自立活動[エンジョタイム]			自立活動[エンジョタイム]		
15:05	10		自立活動[帰りの会]			自立活動[帰りの会]			自立活動[帰りの会]			自立活動[帰りの会]			自立活動[帰りの会]		
15:15	5	下校															



1月	更衣・ランニング・朝の会	自活	総合	外国語	美術
2火	更衣・ランニング・朝の会	体育	<u>数学</u>	<u>理科</u>	音楽
3水	更衣・ランニング・朝の会	道徳	国語	<u>社会</u>	作業
4木	更衣・ランニング・朝の会	体育	<u>数学</u>	<u>理科</u>	家庭
5金	更衣・ランニング・朝の会	国語	特活	13:20下校	

子どもたちが見る時間割

HPに出ている時間割（西浦支援学校HPより）



# 授業

## \* 2つの柱

### 教科の力

- ・ 各教科の学習内容  
「国語」  
「数学」  
「社会」  
「外国語」  
「音楽」  
など

← 教科を教える

教科で教える →

### 自立活動

- ・ 得意を活かし  
苦手を補いよりよ  
く生きる力  
「指先の器用さ」  
「コミュニケーション」  
「精神的な安定」  
など

授業でつけて欲しい力

**教科の勉強＋自立活動**

**数学の授業**



教科を教える

教科で教える

# 具体例

## 「10」の大きさ

### 教科の力

- ・ 10 という数の理解

### 自立活動

- ・ 指先の器用さ

(目でみて、ねらって指で  
つまむ)

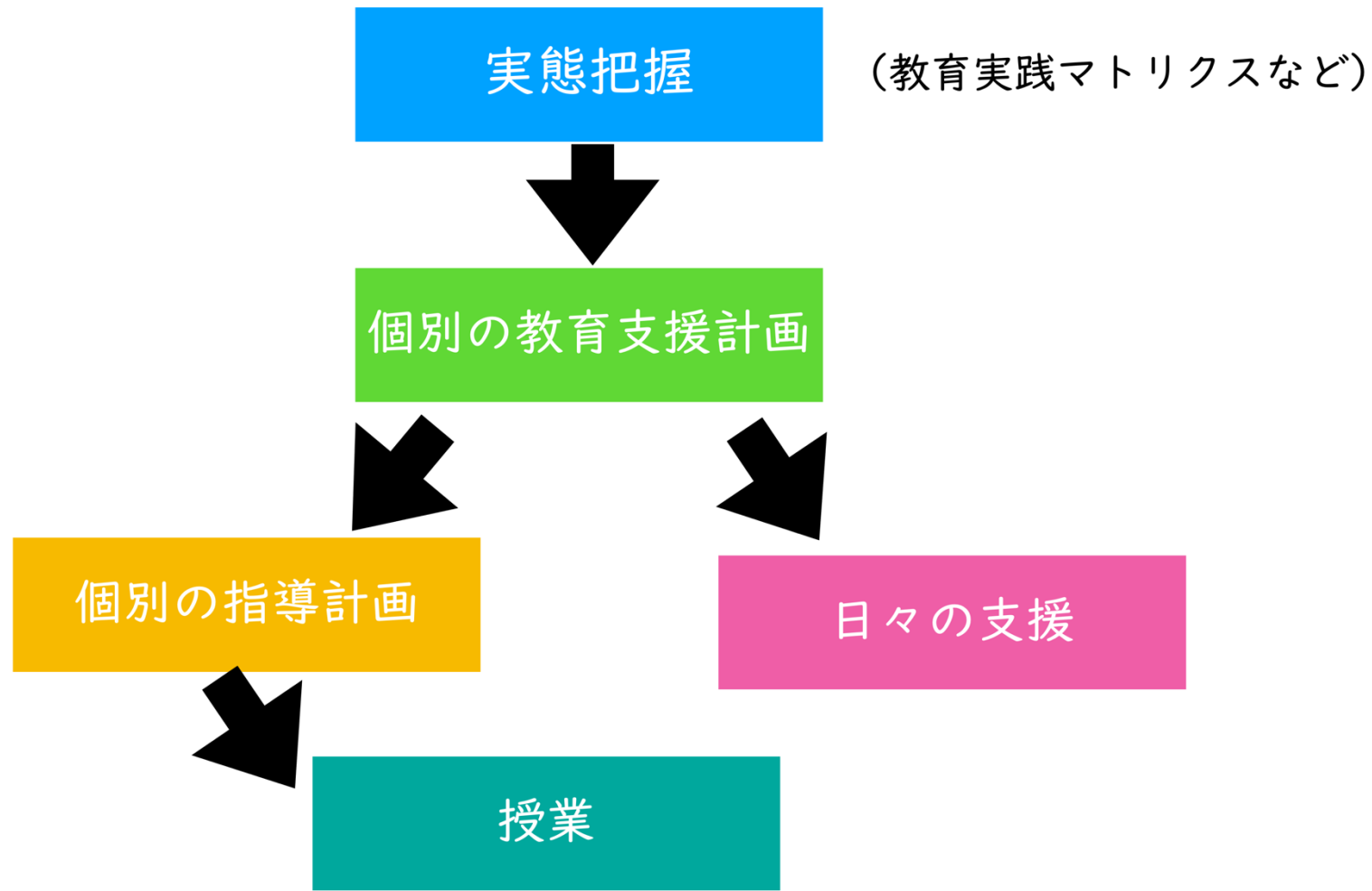
ビーズを卵パックにつまんで  
うつす

\*ビーズの大きさを変える  
お箸でつまむ  
目でみてわかる

# 今日の予定

- 2、特別支援学校における授業について
- 3、授業づくり～各様式の関連性～
- 4、指導案の書き方
- 5、授業の基本的な構成と考え方
- 6、指導略案の書き方
- 7、授業観察の観点
- 8、まとめ 質疑、応答

### 3、授業づくり～各様式の関連性～ 授業までの流れ



# 実態把握

## 最も重要

子どもたちの様子をよく観察する

何を？

得意なことは？＊仮説

苦手なことは？＊仮説

どんな支援が必要？＊仮説

授業では  
それぞれの子どもたちの  
実態を合わせて考える

- 実態把握では、日々の行動観察やアセスメントの結果、保護者からの聞き取りなどを総合して行います。





# 個別の教育支援計画

大切なのは  
本人・保護者の思い

本人、保護者の願い

どんな未来をめざすか？

望む未来（3年後）から逆算する  
今年どこをめざすか

そのために必要な支援は？

3年後（長期）→1年後（短期）目標

大阪府立西浦支援学校 <様式A-4-1>

個別の教育支援計画 目標設定

児童生徒名	[redacted]		
担任	大城 れもん、鬼頭 貴之、樋井 一宏		
卒業時 3年後に つきたい力	【本人の希望・保護者の願い】 ・コミュニケーション力をつけてほしい。		
長期目標	・自分の気持ちを相手に伝えられるようになる。 ・集団行動ができるようになる。		
	1年	2年	3年
年間目標	・困っていることや、手伝ってほしいことを担任に伝えることができる。	・困った時に助けを求めることができる。 ・伝えたいことを正しく伝えることができる。 ・友だちとの適切なかわり方について知る。	
教育実践 マトリクス	目標：支援を求める力	目標：支援を求める力 目標：自他の大切さを認める態度	
該当する項目			
支援の手立て	・最初は担任が思いを聞き取り、適切な伝え方を具体的に教え、少しずつ自分から伝えられるように促す。		
年度末の 様子と課題	・教員から問いかけがあれば、困っていることなどを伝えることができた。自分から質問したり、助けを求めたりできるようになることが今後の課題である。		

- この教育支援計画のねらいや支援の手立てが「自立活動」につながる。
- 学校によって様式が違うが、基本的な考え方は同じ

# 個別の指導計画

1 年間（前期・後期）各教科で  
何を  
どう学ぶか  
（そのために必要な支援は？）

教科で学習すべき内容：ねらい  
自立活動的な課題：教材教具の工夫，活動内容の設定  
支援の手立て：学ぶための支援

支援計画の内容  
各教科の指導計画に  
連携させる

- これも、学校によって様式が違う。  
指導計画と支援計画の関連性は重要。



# 指導案と指導略案

○**指導案**は単元全体の計画を含む

- ・単元全体のねらいと評価
- ・単元全体の流れ
- ・単元の中でそれぞれの授業の関係性

○**指導略案**は1つの授業についての台本

- ・1つの授業のねらいと評価
- ・1つの授業の流れ
- ・児童生徒の活動、教員の動き（支援）

副担当教員（AT）に課題の意図や役割、お願いしたい支援を

伝えることが目的＊支援学校では基本的に複数の教員で授業を行う 19

# 教育実習では・・・

- 1つの単元を設定（することが多い）
- それまでの単元や、次の単元も大切＊教科指導員に質問
- その単元を通して、子どもたちのどんな姿を見たいかから出発して欲しい
- 自分の得意を活かして欲しい（絵本？歌？ダンス？など）
- 指導案を書く機会は少ない。教科指導員に相談できるのは、もっと少ない。じっくり向き合って欲しい
- 技術的なことは指導できるけど、あなたの「やりたい」は指導できない



# 今日の予定

- 3、授業づくり～各様式の関連性～
- 4、指導案の書き方
- 5、授業の基本的な構成と考え方
- 6、指導略案の書き方
- 7、授業観察の観点
- 8、まとめ 質疑、応答

## 4、指導案の書き方

### 【ポイント】

- 各項目で書くべき内容を理解し、書き分ける
  - \*常に主語が教員か児童生徒か確認する
- 各項目がどのように関連し合っているかを確認する
  - \*どこに対応しているか、説明できる
- 自治体独自の表記の決まりに沿っているか、確認する
  - \*「障がい」や「～させる（使役）」を使わないなど

# 授業の基本的な情報

## ・指導者名

名前の前にT1・T2や  
CT・ATをつけることもある

## ・単元名

この授業のタイトル。何をする  
のかや何ができるようになるの  
かを明確にする

## ・単元目標

この授業で身につけて欲しい力  
について箇条書きで書く。

主語は「児童・生徒」

## 「数学・理科」（Ⅱグループ数理）学習指導案

府立西浦支援学校

指導者 T1 樋井 一宏（主担）

指導教諭 T2 ○○ ○○

1. 日時 令和X年6月30日（金） 第2時限（9:50～10:40）
2. 場所 中学部 第3学年3組 教室
3. 学部・学年・組 中学部 第3学年 Ⅱ-②グループ 7人
4. 単元名 「いろいろな形に触れよう、見分けよう（数学）」・「体の部位がわかるかな（理科）」
5. 単元目標
  - ・簡単な図形の弁別ができる。（数学）
  - ・図形の回転や重なりに気づくことができる。（数学）
  - ・見本の図形を再現することができる。（数学）
  - ・体の部位の名称について正確に理解する。（理科）
  - ・落ち着いて課題に取り組み、終了報告を行うことができる。（全般）

# 単元について（単元設定の理由）

- 単元設定の理由（なぜ、この授業を行うのか）を  
「教材観（・単元観）」（なぜ、この教材なのか：教員）  
「児童・生徒観」（なぜ、この子どもたちに必要なのか：児童生徒）  
「指導にあたって（指導観）」（どんな工夫が必要なのか：教員）  
から説明する。

☆この3つがしっかりと関連していることが重要  
ここが、一番難しい

# 教材（・単元観）

- これまでの学習経験や、これからの学習予定、将来の生活の中での活用などを記述。
- どのような力の獲得をめざすかを記述
- どのような活動を行うか記述
- 主語は教員

## （１）教材観

### 【数学】

図形の名称とその弁別の理解を定着させることは、数学的概念の深まりにとどまらず、日常生活での理解の助けにつながるものであると考える。これまで、簡単な図形の学習を行なってきたおり、一定の理解が見られる。そこで、発展的な課題として図形同士の位置関係や回転の学習を行うこととした。この学習を通して空間認知の力を高め、重なり合う図形の学習では見えないものを「想像する」力を育てることになると考えこの課題を設定した。加えて課題の中にブロックを取り入れることで前述の各認知能力の具体的な操作場面を作り出すことができ、さらには手指の巧緻性の課題としても有効であろうと考え取り入れた。ブロックの課題については別紙の「レゴブロックまとりくす」（大阪教育大学 中矢史雄先生より）に基づいて単元構成を行っている。このブロックの課題はいわゆるプログラミング的思考の課題につながるものである。論理的に課題解決に向けた試行錯誤の経験が重要であると考えている。

### 【理科】

体の部位の名称については、今後の生活の中で不調の部位を伝えたり、指示された部位を正しく理解できたりすることでスムーズに生活を送れる場面が多くあると推察される。また、左右の概念についても生活の中の指示などで理解していることが望ましいものであると考える。そして、ボディイメージを養うことは運動や生活に生きるだけでなく、自己理解にもつながるものである。そこで、本単元では体の部位の名称と合わせてその部位に触れることでボディイメージを高める課題を設定した。左右の概念についても別の動作（グーパー・チョキ）と組み合わせることで理解を定着できるよう課題設定を行った。

本単元を通じて自分の体に興味を持ち、理解を深めその経験知を日常生活へと援用して欲しいと考え課題設定を行った。

# 児童・生徒観

- 学習集団の授業における特徴を記述

意欲や態度、興味関心など

- これまでの教科の学習について記述

- 指導上、配慮が必要な点などについて記述

- 主語は「児童・生徒」

## (2) 児童生徒観

ほとんどの生徒が学習に対して意欲的で、皆の前で発表する課題や、個別のプリント課題に対して「もっとやりたい」という気持ちを持っている。意欲の高さから自分の順番を待ちきれなかったり、他の生徒の活動時に集中が途切れ、姿勢が崩れたりすることもある生徒たちである。また、場面緘黙の生徒や、極端な自信の無さから学習環境によっては精神的に不安定になってしまう生徒もいる学習集団である。

そして、手指の巧緻性や目と手の協応運動の苦手さから作業的な課題が不得手な生徒も在籍している学習集団である。

### 【数学】

簡単な図形の弁別およびそれらの回転や組み合わせを取り上げる。ほとんどの生徒がこれまでの学習で基本的な図形（円、四角形、三角形など）の違いについては理解できている。一方で、空間認知や眼球運動の困難さから図形の向きや重なりの違いを見落とししたり、見誤ったりすることのある生徒たちである。

### 【理科】

体の部位の名称について取り上げる。大まかな体の部位については、学習経験の差はあるが概ね理解できている生徒たちである。しかし、ボディイメージの弱さから体背面のイメージがつかみにくかったり、末端の部位までの距離間がつかみにくかったり、左右の概念の理解の曖昧さが見られたりする生徒たちでもある。



# 指導にあたって（指導観）

- 単元目標を達成するために教材や指導形態、授業の進め方、発問、環境設定などの工夫を記述
- 児童生徒の得意を活かす
- 具体的な支援も記述
- 児童生徒観と対応させる
- 主語は「教員」

## （３）指導にあたって

本グループの生徒たちは見通しが持てることで課題への意欲が高まることから授業の流れは固定し継続して取り組めるようにしている。また集中力の持続時間を考慮し、1時間内に複数の課題を用意し、短時間で内容が切り替わるように工夫している。各課題については「見る課題」「聞く課題」「書く課題」「集団活動」「個別課題」「手先を動かす課題」と多くの種類を1時間内に配置している。これもまた生徒の意欲を継続させるためのものである。

ほとんどの課題においてできた時には生徒の実態に応じた方法（声、ハンドサイン）で終了を報告するようにしている。将来の生活を見据え、できたことを伝えられる力をつけるために1年時から取り組んでいるものである。プリントの整理やブロックの片づけを自身で行うのも同様の理由である。

## 【数学】

形の模倣は個人の課題によって「回転」や「重なり」「位置関係」を学習できるようにする。また、友だちの活動を「見る」ことで各課題が学び合いの中で学習できるように、必要に応じて言葉かけを行うようにしている。

各自の到達度合いに応じてプリント課題を用意することで学習内容の定着をはかるようにしている。

そして、集団で行った図形の学習を「プリント課題」や「ブロック」という個別課題によって定着できるように授業を構成している。

## 【理科】

課題の最初に「左右」について確認することで曖昧になりがちな左右の概念を確認するようにしている。教員が指示する部位についても中心⇒末端、大きな部位⇒細かな部位となるように配慮している。課題の最後に個別のプリント課題を用意することで学習意欲を高め、知識の定着を意図している。

# まとめると

- まず、「何をやりたいか」「どんな姿を見たいか」→単元決定
- 【教材観】これまで、図形の学習を行ってきた。発展的な学習として設定。図形の知識（数学）、空間認知や手指の巧緻性（自立活動）を高める→将来の日常生活や職業生活に結びつく
- 【児童生徒観】学習意欲は高いが、集中が途切れやすい。手指の巧緻性に課題。図形の基本的な知識は身についている。
- 【指導観】授業の流れを固定し、見通しを持てるようにする。活動の種類を増やし、集中を維持する。実態に応じた終了報告の手段を用意する。

# 指導計画・評価

- 単元の流れを表にまとめる。
- 大きな区切りがあるときは「○次」で区切る。
- 目標には各授業の目標を
- 学習内容にはその授業の内容を簡単に
- 評価にはその授業の評価とその方法

＊目標と対応させること  
全ての時間、全ての観点で  
評価する必要はない

10. 単元の指導と評価の計画（全11時間）（必要に応じて、行を追加してください）

次	時	目標	学習内容	評価基準
第一 次	1時	・ 基本的な形の名前がわかる ・ ブロックをできるだけ高く積みあげることができる ・ 体の部位について知る	・ 形のなまえ（基本図形） ・ レゴ（高く積み上げよう） ・ 体の部位（全身）	・ 図形カードの名前を答えることができる（知・技） ・ 指定された時間、集中してブロックを積み重ねることができる（態） ・ 指定された体の部位にタッチすることができる（知・技）
	2・3時	・ 形の違いがわかる ・ 見本通りブロックを積み重ねることができる ・ 顔のパーツの名称について知る	・ 形の弁別 ・ レゴ（おなじ色で積み上げよう） ・ 体の部位（顔）	・ 図形カードを種類ごとに分けることができる（思・判・表） ・ 同じ色のブロックだけを積み重ねることができる（知・技） ・ 指定された顔の部位にタッチすることができる（知・技）
	4・5時	・ 回転しても同じ図形がわかる ・ 見本通りブロックを積み重ねることができる ・ 体の部位（細部）について知る	・ 形の弁別（回転） ・ レゴ（しましまに積み上げよう） ・ 体の部位（全身細部）	・ 見本と同じ図形カードを選ぶことができる（思・判・表） ・ 2色のブロックを交互に積み重ねることができる（思・判・表） ・ 指定された体の部位にタッチすることができる（知・技）
第二 次	1・2時	・ 拡大縮小しても同じ図形がわかる ・ ブロックをできるだけ並べることができる ・ 顔のパーツ（細部）の名称について知る	・ 形の弁別（拡大縮小） ・ レゴ（平たく並べよう） ・ 体の部位（顔細部）	・ 見本と同じ図形カードを選ぶことができる（思・判・表） ・ 指定された時間、集中してブロックを並べることができる（態） ・ 指定された顔の部位にタッチすることができる（知・技）
	3・4時	・ かる ・ 見本通りブロックを並べることができる ・ 体の部位の名称を答えることができる	・ レゴ（形を真似しよう） ・ 体の部位（全身）	・ 思・判・表 ・ 見本と同じようにブロックを並べることができる（思・判・表） ・ プリントに体の部位の名称を書くまたはなぞることができる。（知・技）
第三 次	5・6時（本時）	・ 拡大縮小や回転して重なっている2つの図形がわかる ・ 決められた範囲にぴったりブロックを並べることができる ・ 顔の部位の名称を答えることができる	・ 形の弁別（複合） ・ レゴ（一面に並べよう） ・ 体の部位（顔）	・ 見本と同じ図形カードを選ぶことができる（思・判・表） ・ 計画的にブロックを並べ、決められた範囲に過不足なく収めることができる（思・判・表） ・ プリントに体の部位の名称を書くまたはなぞることができる。（知・技）

# 評価について

- 知識・技能
- 思考力・判断力・表現力
- 学びに向かう力, 人間性等

- 各基準に対して到達レベルを数段階用意しておく

\* なぞり書き、視写、書き取りなど

知識・技能↩	思考・判断・表現↩	学びに向かう力↩
<ul style="list-style-type: none"> <li>• 基本的な図形の名称がわかる。↩</li> <li>• 見本と同じ形を選びカードを貼ることができる。↩</li> <li>↩</li> <li>• 回転、拡大・縮小した形であっても同じ形と識別することができる。↩</li> <li>↩</li> <li>• 条件に応じた形でブロックを積むことができる。↩</li> <li>↩</li> <li>• 体の部位の位置と名称を正しく理解できる。↩</li> <li>↩</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 形を見比べ異同を判断できる。↩</li> <li>↩</li> <li>↩</li> <li>↩</li> <li>↩</li> <li>↩</li> <li>• 条件に合ったブロックを積むための方略を立てることができる。↩</li> <li>↩</li> <li>• 指示を理解し、体の部位に正確に触れることができる。↩</li> <li>↩</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 課題に関心をもち、意欲的に取り組むことができる。↩</li> <li>↩</li> <li>• 皆の前でも課題に取り組むことができる。↩</li> <li>↩</li> <li>• 順番を守って活動することができる。↩</li> </ul>
<div> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 指示された体の部位に触れることができる。↩</li> <li>↩</li> <li>• 顔や体の部位の名称を書き取り又はなぞり書きすることができる。↩</li> </ul> </div>		

# 児童生徒の実態と 本時の目標

- 児童生徒の一人ひとりの実態  
本時に関係のあるものを記述  
意欲や態度、興味関心  
教科の知識や技能
- その児童生徒に本時で到達し  
て欲しい目標（姿）  
本時の目標と対応しているか  
具体的に観察可能な行動で

D	形の名義については概ね理解できている。回転や重なりについての理解が不十分である。書字については漢字交じりで書くことができる。学習意欲が高い。一方でやりたい気持ちが先行してしまったり、友だちの活動時に答えを教えてしまったりすることがあるので順番が意識できるよう言葉かけが必要。	●体の部位について適宜漢字を交えて正確に書くことができる。	●プリント課題に正確に記入できたか。
		●例と同じ形を選ぶことができる。	●プリント課題に正確に記入できたか。
		●条件に合うように方略を立ててブロックを積むことができる。	●プレート一面を過不足なくブロックで埋めることができたか。
E	形の名義については曖昧。体の部位についても左右の間違いがある。書字はひらがなで書くが自身の発音が不明瞭なこともあり書き間違いがある。発音と共に確認が必要。学習意欲が高い。自分の活動時以外集中が乱れ姿勢が崩れることがあるので、見通しが持てるよう言葉かけが必要。手先の不器用さがあるので慌てず課題に取り組むよう言葉かけが必要。	●体の部位の名義をひらがなで書くことができる。	●プリント課題に正確に記入できたか。
		●例と同じ形を選ぶことができる。	●プリント課題に正確に記入できたか。
		●条件に合うようにブロックを積みもうとすることができる。	●プレート一面に過不足なくブロックを積みもうとしたか。
F	形の名義については概ね理解できている。体の部位については使用頻度の高い部位についてはよく理解できているが使用頻度がさがると曖昧になる。書字はひらがなで書くが自身の発音が不明瞭なこともあり書き間違いがある。発音と共に確認が必要。特に濁音には注意が必要。学習意欲が高い。自分の活動時以外集	●体の部位の名義をひらがなで書くことができる。	●プリント課題に正確に記入できたか。
		●例と同じ形を選ぶことができる。	●プリント課題に正確に記入できたか。
		●条件に合うようにブロックを積みもうとすることができる。	●プレート一面に過不足なくブロックを積みもうとしたか。



# 本時の学習指導

- 本時の目標  
単元の目標と  
齟齬がないか  
(・評価規準)  
それぞれの目標の  
評価方法と規準を  
決めているか  
\*どのような行動が  
見られればOK?  
観察可能な行動?  
・準備物も明記

## 11. 本時の学習指導

### (1) 本時の目標

- ・授業の始まりと終わりを意識して授業に取り組むことができる。
- ・順番を守って皆の前で活動することができる。
- ・体の部位（顔）について理解することができる。
- ・形の違いを見分けることができる。
- ・ブロックを一面に並べることに取り組むことができる。

### (2) 本時の評価規準

- ・実態に応じた方法で挨拶をし、授業の始まりと終わりを意識できる。
- ・順番を守り、皆の前で活動し、実態に応じた方法で終了報告することができる。
- ・体の部位を正しく理解し、触れたり名称を書き取ったり（なぞったり）できる。
- ・形の違いを理解し、同じ形を選ぶことができる。
- ・ブロックを一面に並べるために方略を立て、挑戦することができる。

### (3) 本時で扱う教材・教具

予定カード、ミニホワイトボード、体プリント（顔）、形プリント、ファイル、パンチ、  
レゴブロックセット、○×プザー



# 学習指導課程

## ・学習活動

生徒が何をするか（時間配分をメモしておくと便利）

## ・援助活動（教師の指導・支援） 教員の動き

## ・（評価規準・評価方法） 児童生徒のどこを見るか、 何を見るか

時間	学習内容・学習活動	援助活動	評価規準
10分 導入	はじまりのあいさつ（1分） 今日の予定（2分） 出席（7分）	前を向き着席するよう言葉かけを行ってから号令をかける。 予定カードを指さしながら説明する。 写真カードの順に活動するよう言葉かけを行い、終了報告を聞いてから答えを確認するようにする。	●それぞれに応じた方法であいさつができる。 ●ホワイトボード見て、授業の流れに見通しを持つことができる。 ●皆の前に出て活動することができる。 ●順番を待ち、自分の顔写真の下に適切に名前カードを貼ることができる。
36分 展開	からだの部位（5分） 体プリント（6分） 形プリント（10分） レゴ（15分）	注目を促してから指示を行う。 課題に取り組みのスピードを考慮してプリント配布を行い、終了報告の順に〇つけを行う。 個別にヒントや修正点を口頭または文字の書き込みで伝える。 ルールについては前で実演することで具体的に示す。 準備、片づけも生徒自身で行えるよう開始、終了の合図を出す。	●指示されたからだの部位に触れることができる。 ●写真に示された部位を書く（なぞる）ことができる。 ●見本と同じ図形を選ぶことができる。 ●プリントをファイルに綴じることができる。 ●ベースのプレートに過不足なくブロックを置き埋めることができる。
4分 まとめ	本時のまとめ（3分） おわりのあいさつ（1分）	注目を促し、聞く姿勢が整ってから話を始める。 できたことを褒め、次時への学習意欲を高める。 前を向き着席するよう言葉かけを行ってからあいさつをする。	●T1の本時の活動の振り返りを聞くことができる。 ●それぞれに応じた方法であいさつができる。

# 教室配置・板書計画

- 教室配置

児童生徒の並び、ATの立ち位置

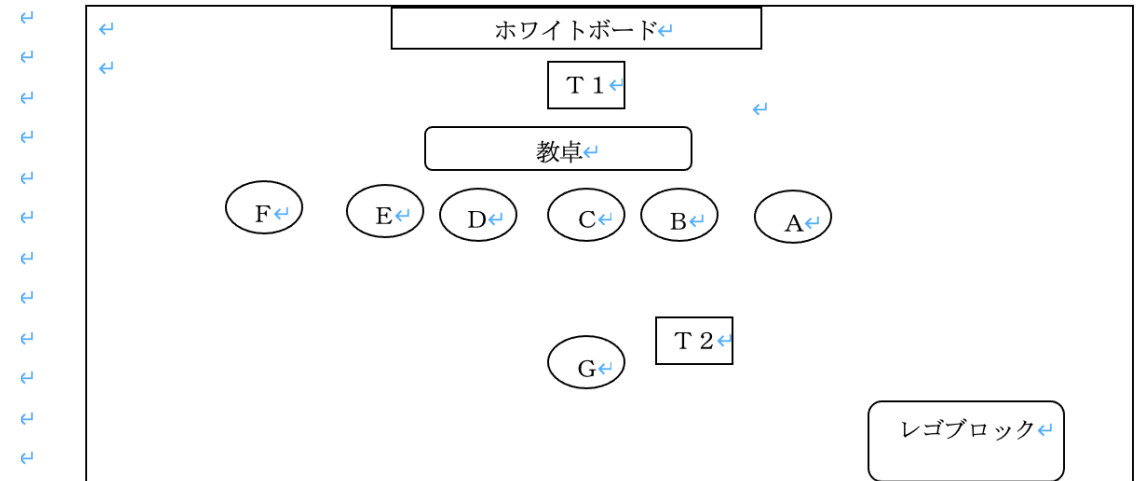
- (板書計画)

1時間の終わりの板書の完成図

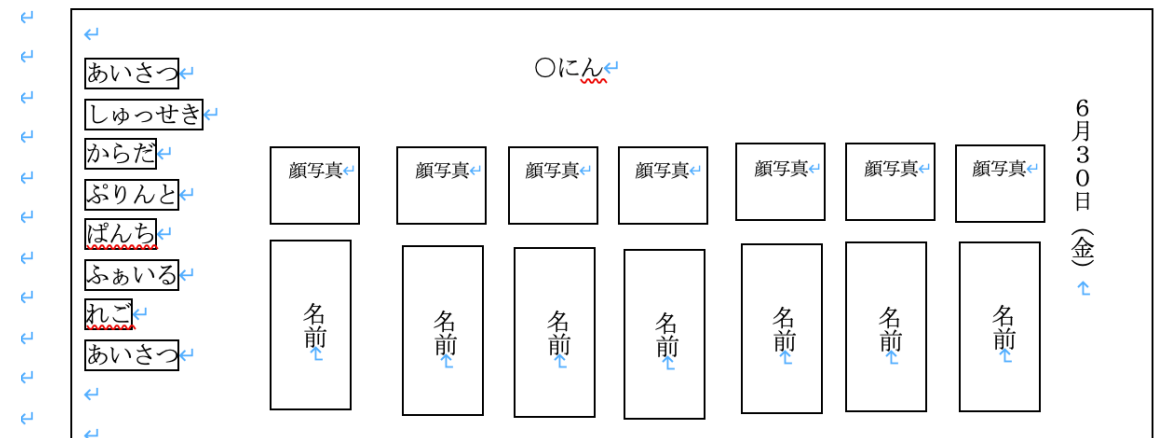
\*様式に無くても書いておくと良い

- ワークシート等があれば添付

(6) 教室配置等 (正面を上にして、児童生徒や教員の位置、準備した教材・教具の位置、配置等を示す。)



◇板書計画 (必要があれば)



# 今日の予定

- 4、指導案の書き方
- 5、授業の基本的な構成と考え方
- 6、指導略案の書き方
- 7、授業観察の観点
- 8、まとめ質疑、応答

# 5、授業の基本的な構成と 考え方

## ・【導入】

授業のはじまりを意識。気持ちの切り替え  
見通しを持つ（実態に応じた提示の工夫）  
やってみたいをどう作るか

## ・【展開】

授業の中心

## ・【まとめ】

何ができたか

できたことを褒める。実態に応じてわかる形  
また頑張ろうをめざす

授業の終わりの意識。気持ちの切り替え

時間	学習内容・学習活動	教員の支援	評価規準
10分 導入	はじめのあいさつ (1分) 今日の予定(2分) 予定カードを見て本 時の学習について知 る 出席(7分) 名前カードを貼る	前を向き着席するよう言葉かけを行 ってからあいさつをする。 予定カードを指さしながら説明す る。 写真カードの順に活動するよう言葉 かけを行い、終了報告を聞いてから 答えを確認するようにする。	●それぞれに応じた方法であ いさつができる。 ●ホワイトボード見て、授業 の流れに見通しを持つことが できる ●皆の前に出て活動すること ができる ●順番を待ち、自分の顔写真 の下に適切に名前カードを貼 ることができる
36分 展開	からだの部位(5分) 指示された体の部位 にタッチ 本プリント(6分) 体の名称の書き取り プリント 形プリント(10分) 見本と同じものを選 ぶプリントに取り組 む レゴ(15分) ブロックを条件に合 うよう並べる	注目を促してから指示を行う。 課題に取り組みのスピードを考慮し てプリント配布を行い、終了報告の 順に〇つけを行う。 個別にヒントや修正点を口頭または 文字の書き込みで伝える。 ルールについては前で実演すること で具体的に示す。 準備、片づけも生徒自身で行えるよ う開始、終了の合図を出す。	●指示されたからだの部位に 触れることができる ●写真に示された部位を書く (なぞる)ことができる ●見本と同じ図形を選ぶこと ができる ●プリントをファイルに綴じ ることができる ●ベースのプレートに過不足 なくブロックを置き埋めるこ とができる
4分 まとめ	本時のまとめ(3分) 本時の活動を振り返 る おわりのあいさつ (1分)	注目を促し、聞く姿勢が整ってから 話を始める。 できたことを褒め、次時への学習意 欲を高める。 前を向き着席するよう言葉かけを行 ってからあいさつをする。	●T1の本時の活動の振り返 りを聞くことができる ●それぞれに応じた方法であ いさつができる

# 展開の考え方①

- 児童生徒の集中できる時間で課題の数を決める

課題ごとに「終わり」を作って、切り替えを促す。

RPGのセーブポイント  
そこから復帰できる

時間	学習内容・学習活動	教師の指導支援	評価規準
10分	はじめのあいさつ (1分)	前を向き着席するよう言葉かけを行ってからあいさつをする。	●それぞれに応じた方法であいさつができる。
導入	今日の予定(2分)	予定カードを指さしながら説明する。	●ホワイトボード見て、授業の流れに見通しを持つことができる。
	出席(7分)	写真カードの順に活動するよう言葉かけを行い、終了報告を聞いてから答えを確認するようにする。	●皆の前に出て活動することができる。 ●順番を待ち、自分の顔写真の下に適切に名前カードを貼ることができる。
36分	からだの部位(5分)	注目を促してから指示を行う。	●指示されたからだの部位に触れることができる。
展開	体プリント(6分)		●写真に示された部位を書く(なぞる)ことができる。
開	形プリント(10分)	課題に取り組みのスピードを考慮してプリント配布を行い、終了報告の順に〇つけを行う。 個別にヒントや修正点を口頭または文字の書き込みで伝える。	●見本と同じ図形を選ぶことができる。 ●プリントをファイルに綴じることができる。
	レゴ(15分)	ルールについては前で実演することで具体的に示す。 準備、片づけも生徒自身で行えるよう開始、終了の合図を出す。	●ベースのプレートに過不足なくブロックを置き埋めることができる。
まとめ	終わりのあいさつ (1分)	話を始める。 できたことを褒め、次時への学習意欲を高める。 前を向き着席するよう言葉かけを行ってからあいさつをする。	りを聞くことができる。 ●それぞれに応じた方法であいさつができる。

# 展開の考え方②

## ・活動の種類

見る：今日の予定、本時の予定  
友だち活動を見る

聞く：出席など

体を動かす：出席、体の部位

書く：体、形プリント

指先を使う：ファイルに綴じる  
レゴ

時間	学習内容・学習活動	教師の指導支援	評価規準
10分 導入	はじめのあいさつ (1分) 今日の予定(2分) 出席(7分)	前を向き着席するよう言葉かけを行ってからあいさつをする。 予定カードを指さしながら説明する。 写真カードの順に活動するよう言葉かけを行い、終了報告を聞いてから答えを確認するようにする。	●それぞれに応じた方法であいさつができる。 ●ホワイトボード見て、授業の流れに見通しを持つことができる ●皆の前に出て活動することができる ●順番を待ち、自分の顔写真の下に適切に名前カードを貼ることができる
36分 展開	からだの部位(5分) 体プリント(6分) 形プリント(10分) レゴ(15分)	注目を促してから指示を行う。 課題に取り組みのスピードを考慮してプリント配布を行い、終了報告の順に〇つけを行う。 個別にヒントや修正点を口頭または文字の書き込みで伝える。 ルールについては前で実演することで具体的に示す。 準備、片づけも生徒自身で行えるよう開始、終了の合図を出す。	●指示されたからだの部位に触れることができる ●写真に示された部位を書く(なぞる)ことができる ●見本と同じ図形を選ぶことができる ●プリントをファイルに綴じることができる ●ベースのプレートに過不足なくブロックを置き埋めることができる。
4分 まとめ	本時のまとめ(3分) おわりのあいさつ(1分)	注目を促し、聞く姿勢が整ってから話を始める。 できたことを褒め、次時への学習意欲を高める。 前を向き着席するよう言葉かけを行ってからあいさつをする。	●T1の本時の活動の振り返りを聞くことができる。 ●それぞれに応じた方法であいさつができる。

# 展開の考え方③

## ・一斉課題と個別課題

### 一斉課題

皆とでなければできないこと  
学び合い、順番を守るなど  
みんなの前で活動する→主役になる  
出席、出席、まとめ

### 個別課題

個々の実態に応じた課題  
1人だからこそ集中できる  
プリント、レゴなど

時間	学習内容・学習活動	教師の指導支援	評価規準
10分 導入	はじめのあいさつ (1分)  今日の予定(2分)   出席(7分)	前を向き着席するよう言葉かけを行ってからあいさつをする。  予定カードを指さしながら説明する。  写真カードの順に活動するよう言葉かけを行い、終了報告を聞いてから答えを確認するようにする。	●それぞれに応じた方法であいさつができる。  ●ホワイトボード見て、授業の流れに見通しを持つことができる  ●皆の前に出て活動することができる ●順番を待ち、自分の顔写真の下に適切に名前カードを貼ることができる
36分 展開	からだの部位(5分)  体プリント(6分)   形プリント(10分)   レゴ(15分)	注目を促してから指示を行う。   課題に取り組みのスピードを考慮してプリント配布を行い、終了報告の順に〇つけを行う。 個別にヒントや修正点を口頭または文字の書き込みで伝える。  ルールについては前で実演することで具体的に示す。 準備、片づけも生徒自身で行えるよう開始、終了の合図を出す。	●指示されたからだの部位に触れることができる  ●写真に示された部位を書く(なぞる)ことができる  ●見本と同じ図形を選ぶことができる ●プリントをファイルに綴じることができる  ●ベースのプレートに過不足なくブロックを置き埋めることができる。
4分 まとめ	本時のまとめ(3分)   おわりのあいさつ (1分)	注目を促し、聞く姿勢が整ってから話を始める。 できたことを褒め、次時への学習意欲を高める。  前を向き着席するよう言葉かけを行ってからあいさつをする。	●T1の本時の活動の振り返りを聞くことができる。  ●それぞれに応じた方法であいさつができる。



# 展開の考え方④

● 既知の課題と新しい課題  
既知の課題は安心して自信を持って取り組める。  
出席、プリント課題

新しい課題はチャレンジ  
レゴ

混ぜて取り組むことも  
からだの部位、プリント課題

実態に合わせた順番や配置

時間	学習内容・学習活動	教師の指導支援	評価規準
10分 導入	はじめのあいさつ（1分） 今日の予定（2分） 出席（7分）	前を向き着席するよう言葉かけを行ってからあいさつをする。 予定カードを指さしながら説明する。 写真カードの順に活動するよう言葉かけを行い、終了報告を聞いてから答えを確認するようにする。	●それぞれに応じた方法であいさつができる。 ●ホワイトボード見て、授業の流れに見通しを持つことができる ●皆の前に出て活動することができる ●順番を待ち、自分の顔写真の下に適切に名前カードを貼ることができる
36分 展開	からだの部位（5分） 体プリント（6分） 形プリント（10分） レゴ（15分）	注目を促してから指示を行う。 課題に取り組みのスピードを考慮してプリント配布を行い、終了報告の順に〇つけを行う。 個別にヒントや修正点を口頭または文字の書き込みで伝える。 ルールについては前で実演することで具体的に示す。 準備、片づけも生徒自身で行えるよう開始、終了の合図を出す。	●指示されたからだの部位に触れることができる ●写真に示された部位を書く（なぞる）ことができる ●見本と同じ図形を選ぶことができる ●プリントをファイルに綴じることができる ●ベースのプレートに過不足なくブロックを置き埋めることができる。
4分 まとめ	本時のまとめ（3分） おわりのあいさつ（1分）	注目を促し、聞く姿勢が整ってから話を始める。 できたことを褒め、次時への学習意欲を高める。 前を向き着席するよう言葉かけを行ってからあいさつをする。	●T1の本時の活動の振り返りを聞くことができる。 ●それぞれに応じた方法であいさつができる。



# その他

- 生徒の興味関心

生徒の興味関心を授業の中に取り入れる

- 自立活動と関連させた教材の工夫

- 先生自身が「楽しい」と感じているか  
授業者の「楽しい」は伝わる

自分が楽しくないものを見童生徒に？

## 具体例

「アルファベット」について知る

教科の力  
・アルファベットについて知る

自立活動  
・見分ける  
・見続ける  
・目と手の協応  
・動きのコントロール  
  
\*素早く反応する  
\*動きを止めて待つ  
  
☆ただ待つのは辛いけど・・・



# 今日の予定

- 5、授業の基本的な構成と考え方
- 6、指導略案の書き方
- 7、授業観察の観点
- 8、まとめ 質疑、応答

# 6、指導略案の書き方

## 指導略案の役割

- ATにその時間の活動や評価の観点を伝える
- ATにその時間中の動きを伝える  
(支援の手立てやどのタイミングでどの生徒を見るか)
- ＊自分の授業の流れをイメージする (時間配分など)

## 授業の台本

- 教科、日時、場所、児童生徒数、指導者名（CT・AT）について書く

- ねらいはその授業の主たる目標を記入

## 中学部 指導略案

1.教科(グループ)	数学・理科 II グループ
2.日時	令和 X 年 Y 月 Z 日 (木) 2 時限目 9 : 50 ~ 10 : 40
3.場所	中学部 3 - 4 H.R.
4.生徒 (人数)	7 人
5.指導者 主担者に○	樋井 ST 1
6.単元名	体の部位について知ろう レゴブロックをびったり敷き詰めよう
7.ねらい	体の部位の名称を知り、書くことができる ブロックを並べることに取り組むことができる

### 8.展開

時間	学習内容・学習活動	教員の支援	評価規準
10分  導 入	はじめのあいさつ (1分)  今日の予定 (2分) 予定カードを見て本 時の学習について知 る  出席 (7分) 名前カードを貼る	前を向き着席するよう言葉かけを行 ってからあいさつをする。  予定カードを指ししながら説明す る。  写真カードの順に活動するよう言葉 かけを行い、終了報告を聞いてから 答えを確認するようにする。	●それぞれに応じた方法であ いさつができる。  ●ホワイトボード見て、授業 の流れに見通しを持つことが できる  ●皆の前に出て活動すること ができる  ●順番を待ち、自分の顔写真 の下に適切に名前カードを貼 ることができる

# 時間

- 時間：導入・展開・まとめに分ける。

- 展開は展開数によって  
展開①、展開②のように  
区切ることも

\*様式にない場合も自分の  
手元にメモとして  
記入しておくと便利

時間	学習内容・学習活動	教員の支援	評価規準
10分 導入	はじめのあいさつ (1分)  今日の予定(2分) 予定カードを見て本時の学習について知る  出席(7分) 名前カードを貼る	前を向き着席するよう言葉かけを行ってからあいさつをする。  予定カードを指さしながら説明する。  写真カードの順に活動するよう言葉かけを行い、終了報告を聞いてから答えを確認するようにする。	●それぞれに応じた方法であいさつができる。  ●ホワイトボード見て、授業の流れに見通しを持つことができる  ●皆の前に出て活動することができる  ●順番を待ち、自分の顔写真の下に適切に名前カードを貼ることができる
36分 展開	からだの部位(5分) 指示された体の部位にタッチ  本プリント(6分) 体の名称の書き取りプリント  多プリント(10分) 見本と同じものを選ぶプリントに取り組む  レゴ(15分) ブロックを条件に合うよう並べる	注目を促してから指示を行う。    課題に取り組みのスピードを考慮してプリント配布を行い、終了報告の順に〇つけを行う。 個別にヒントや修正点を口頭または文字の書き込みで伝える。  ルールについては前で実演することで具体的に示す。 準備、片づけも生徒自身で行えるよう開始、終了の合図を出す。	●指示されたからだの部位に触れることができる  ●写真に示された部位を書く(なぞる)ことができる  ●見本と同じ図形を選ぶことができる  ●プリントをファイルに綴じることができる  ●ベースのプレートに過不足なくブロックを置き埋めることができる。
4分 まとめ	本時のまとめ(3分) 本時の活動を振り返る  おわりのあいさつ (1分)	注目を促し、聞く姿勢が整ってから話を始める。  できたことを褒め、次時への学習意欲を高める。  前を向き着席するよう言葉かけを行ってからあいさつをする。	●T1の本時の活動の振り返りを聞くことができる。  ●それぞれに応じた方法であいさつができる。

# 学習内容

- 学習内容：活動の内容をあらわす題名（児童生徒に示すもの）を書く。
- 主語は児童生徒
- 時間配分も記入しておく  
と便利

時間	学習内容・学習活動	教員の支援	評価規準
10分 導入	はじめのあいさつ（1分）  今日の予定（2分） 予定カードを見て本時の学習について知る  出席（7分） 名前カードを貼る	を向き着席するよう言葉かけを行 てからあいさつをする。  定カードを指さしながら説明す 。  真カードの順に活動するよう言葉 かけを行い、終了報告を聞いてから えを確認するようにする。	●それぞれに応じた方法であ いさつができる。  ●ホワイトボード見て、授業 の流れに見通しを持つことが できる  ●皆の前に出て活動すること ができる  ●順番を待ち、自分の顔写真 の下に適切に名前カードを貼 ることができる
36分 展開	からだの部位（5分） 指示された体の部位 にタッチ  体プリント（6分） 体の名称の書き取り プリント  形プリント（10分） 見本と同じものを選 ぶプリントに取り組 む  レゴ（15分） ブロックを条件に合 うよう並べる	目を促してから指示を行う。    題に取り組みのスピードを考慮し プリント配布を行い、終了報告の に〇つけを行う。 別にヒントや修正点を口頭または 文字の書き込みで伝える。   ールについては前で実演すること 具体的に示す。 備、片づけも生徒自身で行えるよ 開始、終了の合図を出す。	●指示されたからだの部位に 触れることができる  ●写真に示された部位を書く （なぞる）ことができる  ●見本と同じ図形を選ぶこと ができる  ●プリントをファイルに綴じ ることができる  ●ベースのプレートに過不足 なくブロックを置き埋めるこ とができる。
4分 まとめ	本時のまとめ（3分） 本時の活動を振り返 る  おわりのあいさつ （1分）	目を促し、聞く姿勢が整ってから を始める。 きたことを褒め、次時への学習意 を高める。  を向き着席するよう言葉かけを行 てからあいさつをする。	●T1の本時の活動の振り返 りを聞くことができる。    ●それぞれに応じた方法であ いさつができる。

# 教員の支援

- 教員の支援：各学習活動の際に、CT・ATがどのような支援を行うかを記入
- どこまでどのように支援して欲しいかを具体的に記入する
- 主語は教員
- 本時のねらいに迫るための支援  
 + 活動に取り組むための支援

時間	学習内容・学習活動	教員の支援	評価規準
10分	はじめのあいさつ (1分)	前を向き着席するよう言葉かけを行ってからあいさつをする。	それぞれに応じた方法であ さつができる。
導入	今日の予定(2分) 予定カードを見て 時の学習について 出席(7分) 名前カードを貼る	予定カードを指さしながら説明する。 写真カードの順に活動するよう言葉かけを行い、終了報告を聞いてから 答えを確認するようにする。	ホワイトボード見て、授業 流れに見通しを持つことが できる 皆の前に出て活動すること ができる 順番を待ち、自分の顔写真 の下に適切に名前カードを貼 ることができる
36分	からだの部位(5分) 指示された体の部 にタッチ 体プリント(6分) 体の名称の書き取 プリント 形プリント(10分) 見本と同じものを ぶプリントに取り む レゴ(15分) ブロックを条件に うよう並べる	注目を促してから指示を行う。 課題に取り組みのスピードを考慮し てプリント配布を行い、終了報告の 順に〇つけを行う。 個別にヒントや修正点を口頭または 文字の書き込みで伝える。 ルールについては前で実演すること で具体的に示す。 準備、片づけも生徒自身で行えるよ う開始、終了の合図を出す。	指示されたからだの部位に れることができる 写真に示された部位を書く なぞる) ことができる 見本と同じ図形を選ぶこと ができる プリントをファイルに綴じ ることができる ベースのプレートに過不足 なくブロックを置き埋めるこ ができる。
4分	本時のまとめ(3分) 本時の活動を振り 返る おわりのあいさつ (1分)	注目を促し、聞く姿勢が整ってから 話を始める。 できたことを褒め、次時への学習意 欲を高める。 前を向き着席するよう言葉かけを行 ってからあいさつをする。	T 1の本時の活動の振り返 りを聞くことができる。 それぞれに応じた方法であ さつができる。



# 評価規準

- 評価規準：それぞれの学習活動に対する評価（〇〇できる）と

評価方法（行動や成果物）を具体的に記入

- ATはこの評価規準をもとに支援を考える。

- ただし、児童生徒が「できた」という気持ちで活動を終えられることが大切。

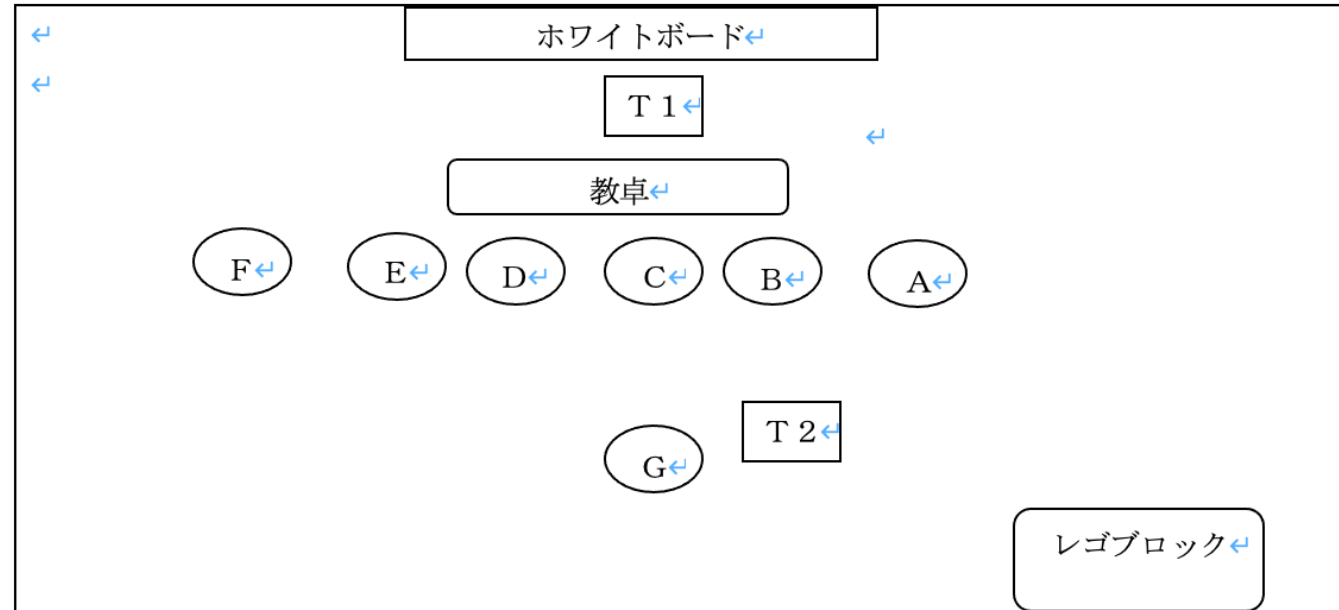
□□という支援があれば△△できた。

- 様式にない場合も考えておく必要がある

8.展開			評価規準
10分 導入	はじめのあいさつ（1分） 今日の予定（2分） 予定カードを見て本時の学習について知る 出席（7分） 名前カードを貼る	前を向き着席するよう言葉かけを してからあいさつをする。 予定カードを指さしながら説明 写真カードの順に活動するよう言 かけを行い、終了報告を聞いてか 答えを確認するようにする。	● それぞれに応じた方法であ いさつができる。 ● ホワイトボード見て、授業 の流れに見通しを持つことが できる ● 皆の前に出て活動すること ができる ● 順番を待ち、自分の顔写真 の下に適切に名前カードを貼 ることができる
36分 展開	からだの部位（5分） 指示された体の部位 にタッチ 体プリント（6分） 体の名称の書き取り プリント 形プリント（10分） 見本と同じものを選 ぶプリントに取り組 む レゴ（15分） ブロックを条件に合 うよう並べる	注目を促してから指示を行う。 課題に取り組みのスピードを考慮 してプリント配布を行い、終了報告 順に〇つけを行う。 個別にヒントや修正点を口頭また 文字の書き込みで伝える。 ルールについては前で実演するこ とで具体的に示す。 準備、片づけも生徒自身で行える よう開始、終了の合図を出す。	● 指示されたからだの部位に 触れることができる ● 写真に示された部位を書く （なぞる）ことができる ● 見本と同じ図形を選ぶこと ができる ● プリントをファイルに綴じ ることができる ● ベースのプレートに過不足 なくブロックを置き埋めるこ とができる
4分 まとめ	本時のまとめ（3分） 本時の活動を振り返 る おわりのあいさつ （1分）	注目を促し、聞く姿勢が整ってか 話を始める。 できたことを褒め、次時への学習 意欲を高める。 前を向き着席するよう言葉かけを してからあいさつをする。	● T 1 の本時の活動の振り返 りを聞くことができる ● それぞれに応じた方法であ いさつができる

# 配置図

- 配置図：児童生徒の座席配置や教材の置き場所、CT・ATの位置を明確に示す。
- 活動によって場所や机の配置を変える場合は、それも示す。



# 今日の予定

6、指導略案の書き方

7、授業観察の観点

8、まとめ 質疑、応答

# 7、授業観察の観点

【授業観察の目的】 自分の授業を考える材料

- 児童生徒の実態把握
- 環境設定
- 授業のパターンの把握
- 授業アイデア
- ATの動き など

# 児童生徒の実態把握

- 授業への意欲は？
- 集中力はどれくらい続く？課題によって変わる？
- 普段の様子と授業の時の様子で違いは？
- 得意な活動は？なぜ？
- 苦手な活動は？なぜ？

# 環境設定

- 座席配置（ATの位置）とその意図は？
- ホワイトボード（クラスの掲示物は？）やTVモニター（向きは？）
- 活動によって座席配置や活動場所を変えているか？
- 教材の置き場所とその意図（最初から出ている？隠してある？）

# 授業パターンの把握

- 導入、まとめはパターン化されていることが多い。  
子どもたちがその形に慣れている。
- 授業の予定の提示方法は？  
絵カード？文字？ホワイトボード？掲示物？など
- 活動の数（展開の数）とその意図
- 課題の順序とその意図
- どこまで子どもたちにやらせるか
- 振り返りの方法は？



# 授業のアイデア

- 教材の工夫とその意図は？
- 言葉かけのタイミングや方法と意図
- 子どもたちの「やりたい」をどう引き出しているか
- 気になる子どもの行動への対応は？

# ATの動き

子どもたちの学びを充実させるためにSTの動きは重要

- どこにいるのか、それは何故か？  
常に同じ場所？移動している？  
CTとの役割分担は？一斉課題・個別課題
- 誰に対して、どのような支援を行なっているのか？  
個人、複数、全体      それは何故か？
- 指導略案の配置図などを参考に。自分の授業ならどうするか。

# 今日の予定

7、授業観察の観点

8、まとめ質疑、応答

# まとめ 質疑、応答

- 1、自己紹介
- 2、特別支援学校における授業について
- 3、授業づくり～各様式の関連性～
- 4、指導案の書き方
- 5、授業の基本的な構成と考え方
- 6、指導略案の書き方
- 7、授業観察の観点
- 8、まとめ 質疑、応答

質問がありましたらどうぞ

ありがとうございました



教育実習が皆さんにとって  
充実したものとなりますように  
応援しています！！

# 参考文献

- ・島根県教育センター「特別支援教育」

<https://www.shimane-ec.pref.shimane.lg.jp/shien/tokubetsushien/index.html>

- ・大阪府 令和3年度「ともに学び・育つ」学校づくり支援事業  
自立活動ハンドブック（中学校版）～「ともに学び、ともに育  
つ」教育の継承とさらなる発展のために～

<https://www.pref.osaka.lg.jp/documents/35647/handbook-chu.pdf>

# 課題

- 次の事例の学習者に対する 国語の授業（1コマ 50分）を考え、指導略案を作成してください。

CT 1 名・AT 1 名の授業とします

＊学習指導要領の関連箇所を読んでおくとききやすいと思います

- 締切：4月30日

＊提出する略案に記入する必要はありませんが、単元全体をイメージし、その授業が単元のどこに位置するのか意識して略案を作成してください。

（単元の最初の導入？単元のまとめ？まとめの直前？など）



- 事例
- 知的障害特別支援学校中学部 2 年生 4人
  - 課題別学習グループ 支援レベルが中程度グループ（中度）
  - 特別支援学校学習指導要領小学部 2 段階を目標とする生徒

生徒名	A	B	C	D
支援計画の目標	周りの動きを見て行動することができる。	自分の思いなど教員に言葉で伝えられることを増やす。	集団の中でルールや約束を守って活動する。	教員の問いに意思表示することができる
診断名	ダウン症	自閉スペクトラム症	自閉スペクトラム症	ダウン症
実態	学習意欲が高く、積極的。口頭指示の理解が可能。指先に不器用さがあり、動作はゆっくり。2～3語文で要求を伝えることができる。ひらがなは概ね読み書きできる。発音はやや不明瞭。テンションが上がるとふざけてしまうことがある。15分程度集中して活動できる。	簡単な口頭指示の理解が可能。2語文で要求を伝える練習をしている。衝動性が高く、気になるものがあるとそこに走ってしまい離席がある。ひらがなの読み書きが可能。うるさい場所が苦手。10分程度集中して活動できる。集中が途切れると手遊び、つば遊びがある。	座位姿勢が不安定で指先の不器用さがある。口頭指示の理解が可能。自分の要求を首振りや1～2語で伝えることが可能。ひらがなの読み書きが可能。注意がそれやすく、注視が苦手。得意な課題は10分程度集中して活動できる。苦手な課題や注意を受けるとふざけてしまうことがある。	学習意欲は高いが、恥ずかしがり屋で、自信がもてない時は消極的になりやすい。発音は不明瞭 簡単な口頭指示の理解が可能。指先に不器用さがあり、行動はゆっくり。ひらがなの読み書き共に概ね理解。10分程度集中して活動できる。

# これまでの学習

- 出席は呼名後、名前カードを前に貼る（1文字・苗字、名前）
- ひらがなの書き取り練習（なぞり書き、視写、書き取り）プリント
- 物語（大型絵本『どうぶついろいろかくれんぼ』、動画NHK for School「おはなしのくに」、オリジナル絵本「スノークリスタル-雪の秘密-（<https://dashnin-kyouzaiko.com/2024/10/25/kamisibai7-snowcrystal/>） など）
- 運動会の作文
- 動物カルタなど

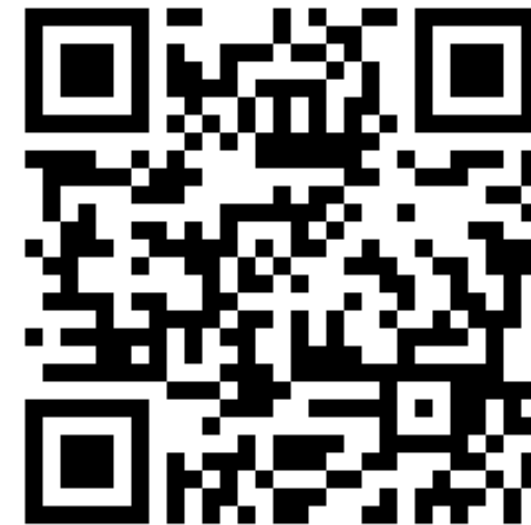


# Teach U

- パワーポイントをカスタマイズ

「こんなことができたらいいな」を叶えるサイト

<https://musashi.educ.kumamoto-u.ac.jp>



各教科、指導要領段階別 教材が充実

A screenshot of the Teach U website. The header includes the site logo and navigation links: お知らせ, ライブラリ, サムネイルズ, TU Parts, にほんご×Teach U, 教材DB, Teach Uって?, コラム, 問合せ. The main content area features a row of six colorful icons representing different subjects or topics. Below these are several speech bubble-style callouts with text: 'パワーがここまでできるのか', '授業ヒントの宝庫', '通常学級でも使える教材', '学校で活用できるPowerPoint教材を配布しています', 'PowerPoint教材作りが、楽しくなりました', '欲しい教材がいっぱいあって感動しています', and 'やってみようという気になりました'. At the bottom, there are three main sections: 'プレゼン教材' (Presentation Materials), 'TU Parts' (TU Parts), and 'Teach Uって?' (What is Teach U?). Each section has a brief description. On the right, there is a search bar with the placeholder text 'キーワードをどうぞ' and a '検索' button. Below the search bar is a '閲覧履歴' (Browsing History) section showing a recent search for '3/14(木)の夜、JSET SIG-SIG主催のオンラインイベント'.

# ためカモ学びサイト

- 可愛いイラストいっぱい  
教材作りやお便りにも  
著作権も安心

<https://tamekamo.com>

発達段階に応じたプリント課題や  
その課題のねらいの解説が充実



# ダッシュニンの特別支援教材室



- Keynoteの教材が充実  
おすすめアプリや解説動画  
実践報告もダウンロードできる。

<https://dashnin-kyouzaiko.com>

教科別に教材が探せる

